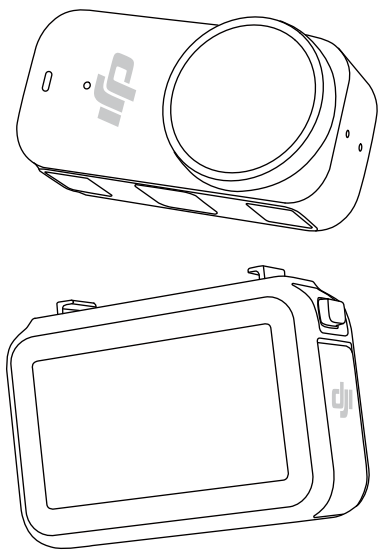
OSMO NANO

ユーザーマニュアル

v1.2 2025.11



本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠重要　　ヒントとコツ　　参考

ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド 』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』 をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド 』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：

https://www.dji.com/nano/video

© 2025 DJI All Rights Reserved.

目次

本マニュアルの使用方法 3

凡例 3
ご使用前にお読みください 3
チュートリアルビデオ 3

1 製品の特徴 5

1.1 概要 5
1.2 標準アクセサリー 6

2 準備 9

2.1 アクティベーション 10
2.2 ファームウェアの更新 11
2.3 充電中 11

3 本製品の使用 12

3.1 ボタン機能 12
カメラボタン 12
ビジョンドックボタン 13
3.2 タッチスクリーンの操作 13
撮影モードの設定 14
撮影パラメーターの設定 14
コントロールセンター 15
3.3 映像の保存と転送 17
ストレージ空き容量 17
ファイル転送 18
microSD カードへのファイル転送 18
モバイル端末へのファイル転送 18
ファイルをパソコンに転送 19
3.4 使用上の注意 19
水中での使用 20
クリーニング 20
バッテリー 21

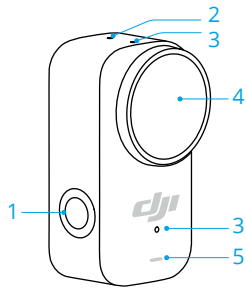
4 仕様 22

 © 2025 DJI All Rights Reserved.

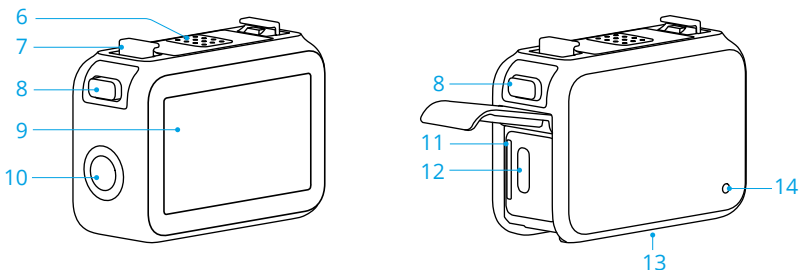
1 製品の特徴

1.1 概要

カメラ



多機能ビジョンドック



1. カメラボタン
2. ブザー
3. マイク
4. レンズ
5. ステータス LED

点滅パターン	説明
緑色点灯	カメラの電源が入り、撮影準備ができています。カメラのバッテリー残量が 20%未満のときに電源を入れると、LED が短く黄色に点滅します。
一時的にオフになり、緑色継続	写真を撮影中
赤色点滅	動画またはカウントダウン写真を撮影中

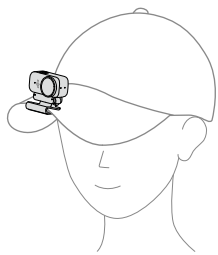
© 2025 DJI All Rights Reserved.

点滅パターン	説明
赤色に 3 回素早く点滅	カメラの電源を切っています
ゆっくりした青色点滅	自動録画の準備中
青色にすばやく点滅	カメラ単体使用時に、初めて DJI Mimo アプリへの接続を試みています。
黄色点灯	内部ストレージ容量不足
赤色と緑色に交互に点滅	ファームウェア更新中
赤色点灯	予備充電中。その後、ビジョンドック画面にバッテリー残量が表示されます。

6. 連絡先
7. クイックリリースロッククリップ
8. クイックリリースボタン
9. タッチ画面
10. ビジョンドックボタン
11. microSD カードスロット
12. USB-C ポート
13. スピーカー
14. 空気圧調整穴

1.2 標準アクセサリー

Osmo Nano 磁気ハットクリップ

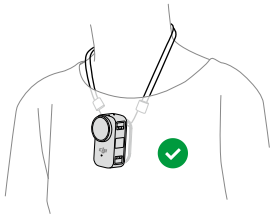


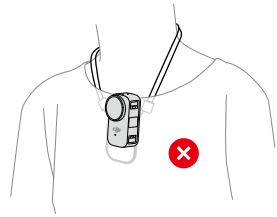
Osmo Nano 磁気ストラップ

⚠ • カメラが落下しないよう、磁気プレートにしっかりと取り付けてください。磁気ストラップを使用する際は、ビジョンドックを取り付けないでください。

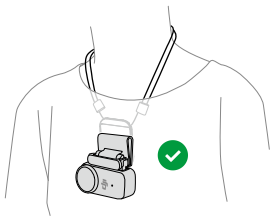
 © 2025 DJI All Rights Reserved.

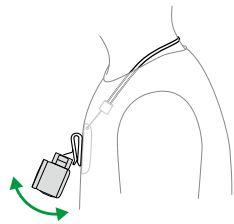
- 厚手の衣服に磁気ストラップを使用しないでください。磁気の接続が弱まり、カメラが落下する恐れがあります。
- 激しい動きの際は、カメラの落下を防ぐため、磁気ストラップを使用しないでください。





磁気ハットクリップ + 磁気ストラップ



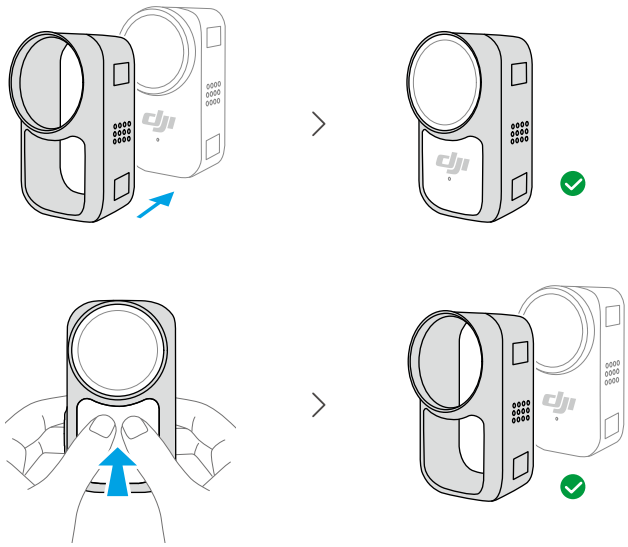


Osmo Nano 保護ケース

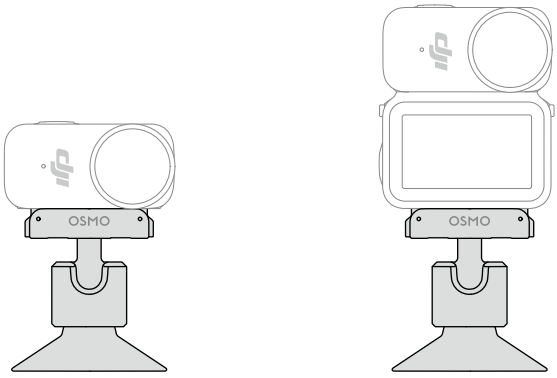
カメラを長時間保持する必要がある場合は、保護ケースを取り付けることを推奨します。

⚠ 衝撃を受けた際に、カメラが保護ケースから外れる可能性があります。大きな衝撃が加わる状況では、保護ケースを使用しないでください。

© 2025 DJI All Rights Reserved.



Osmo Nano 両方向磁気ボールジョイント アダプターマウント

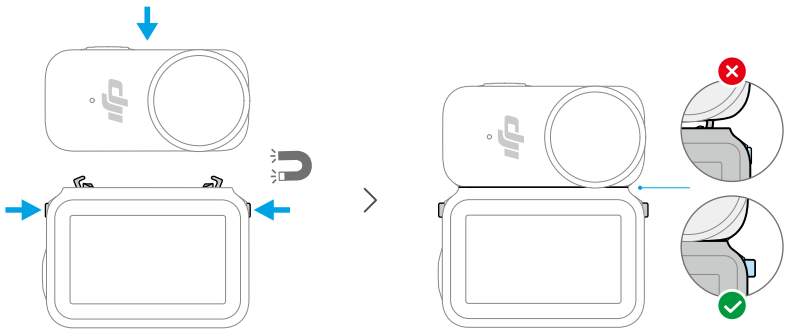


© 2025 DJI All Rights Reserved.

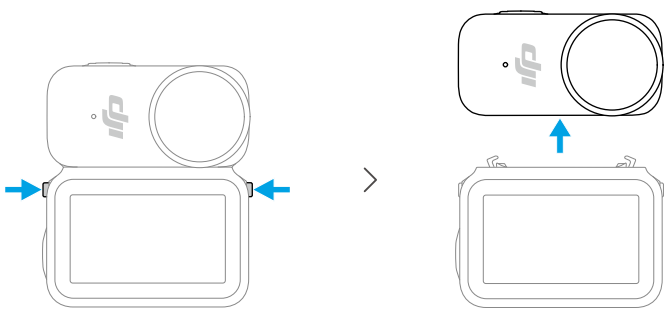
2 準備

本製品は、カメラと多機能ビジョンドック（以下、ビジョンドック）の 2 つのパーツで構成されています。カメラは撮影に使用し、ビジョンドックではライブビューを確認でき、パラメーターや機能を調整できます。

併用する場合は、レンズを前方または後方に向けてカメラをビジョンドックに取り付けます。カメラを押し込んで、しっかりと接続されていることを確認してください。安全にロックされると、カチッという音がします。



カメラは取り外して、単独で撮影に使用することもできます。単独で使用するために取り外すには、両側のクイックリリースボタンを押してロックを解除し、ビジョンドックを取り外します。



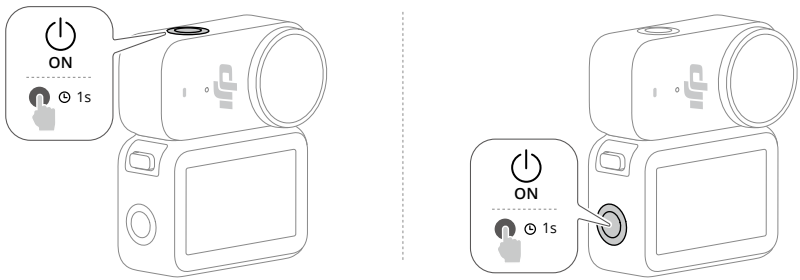
- 取り付けると、ビジョンドックはカメラを充電します。一部の高消費電力のシナリオでは、充電は停止され、ビジョンドックのバッテリーの使用が優先されます。
- カメラを単独で使用する場合でも、ビジョンドックをオンにして無線でライブビューを確認できます。動画伝送の有効範囲に注意してください。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

2.1 アクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mimo アプリを使用してカメラのアクティベーションを行ってください。

1. カメラがビジョンドックに取り付けられている場合、カメラボタンまたはビジョンドックボタンを長押しして電源をオンにします。



2. 画面の QR コードをスキャンして DJI Mimo アプリをダウンロードします。
3. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
4. モバイル端末で DJI Mimo アプリを起動して、カメラアイコンをタップしてカメラに接続し、手順に従ってカメラのアクティベーションを行います。

カメラが DJI Mimo アプリと併用されている場合、モバイル端末を使用して、現在のカメラビューをモニタリングしたり、カメラパラメーターを設定したり、カメラを制御したりできます。

- アプリがサポートする Android と iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-mimo をご覧ください。
- アプリのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際のユーザー体験は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

DJI Mimo アプリへの接続時に問題が発生した場合には、次の手順に従ってください。

1. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth の両方が有効になっていることを確認してください。
2. DJI Mimo アプリが最新ファームウェアバージョンであることを確認してください。
3. ライブビューでは、画面の上部からスワイプダウンして ⚙ > **無線接続** > **接続をリセット**をタップします。カメラのすべての接続と Wi-Fi パスワードがリセットされます。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

2.2 ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Mimo アプリにプロンプトが表示されます。プロンプトをタップし、画面上の指示に従って、ファームウェアを更新してください。

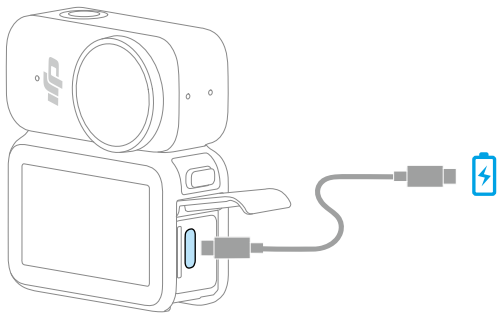
更新できない場合、次の手順に従って問題を解決してください。

1. カメラと DJI Mimo アプリを再起動します。
2. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
3. カメラと DJI Mimo アプリを接続し、再度アップデートを試行します。

更新に失敗したら、DJI サポートにご連絡ください。

2.3 充電中

USB-C ポートのカバーを開け、付属ケーブルを使用して USB-C ポートを充電器に接続します。USB-C PD 充電器を使用することをお勧めします。



© 2025 DJI All Rights Reserved.

3 本製品の使用

3.1 ボタン機能

- デフォルトのボタン機能は以下に説明します。ボタンの機能を変更するには、画面上部からスワイプダウンして、 をタップして必要に応じてカスタマイズします。
- カメラをビジョンドックに取り付けた状態で、カメラボタンまたはビジョンドックボタンを長押しすると、両方のモジュールを同時にオンまたはオフにすることができます。

カメラボタン



電源オフ時

- **1 回押す**：電源を入れて録画を開始します（スナップショット）。再度押すと動画撮影を停止します。
  - ビジョンドックを使用していない場合は、撮影後にカメラの電源が自動的にオフになります。
  - ビジョンドック使用時、撮影後 3 秒間操作がない場合、カメラは自動的に電源オフになります。
- **長押し**：電源をオンにします。

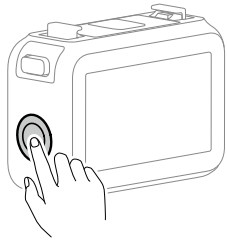
スナップショット機能は、撮影を開始する最速の方法で、アクションの瞬間を逃しません。デフォルトでは、スナップショットは最後に使用した撮影設定を適用します。

送信機の電源をオンにすると

- **1 回押す**：写真撮影、または動画撮影の開始／停止。
- **2 回押す**：カメラボタンのカスタム撮影モードに切り替えて撮影を開始します。
- **長押し**：電源オフ。

 © 2025 DJI All Rights Reserved.

ビジョンドックボタン



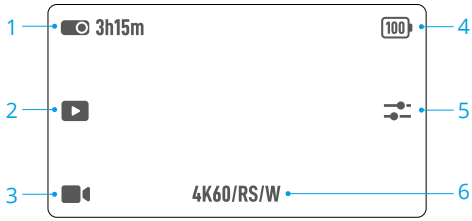
- **長押し**：電源オン／オフ。

電源をオンにすると

- **1 回押す**：写真撮影、または動画撮影の開始／停止。
- **2 回押す**：撮影モードクイックスイッチページに入ります。プリセット撮影モードを切り替えるには再度押します。

3.2　タッチスクリーンの操作

カメラの電源が入ると、タッチ画面にライブビューが表示されます。



1. **ストレージ容量／残り録画時間**
2. **再生**

   再生中に、画面の右端から左にスワイプしてライブビューに戻ります。

   > カメラとビジョンドックを別々に使用する場合、再生は低解像度となります。カメラとビジョンドックが離れている場合や、干渉が発生している場合、画質が低下することがあります。

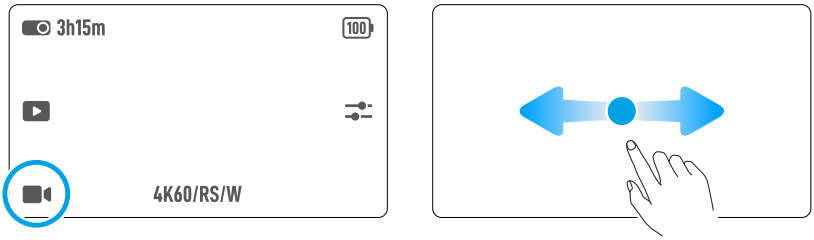
3. **撮影モード**
4. **カメラのバッテリー残量**

   タップして、カメラとビジョンドックの両方のバッテリー残量を確認します。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

5. **画像／音声パラメーター**
6. **撮影仕様**

撮影モードの設定

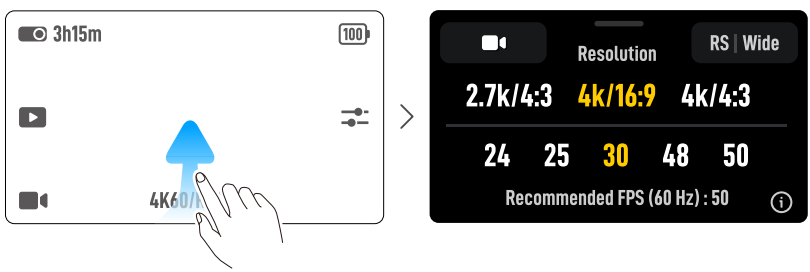


1. アイコンをタップするか、画面を左右にスワイプして、モード切り替えページに入ります。
2. スワイプして撮影モードを選択します。
3. 選択した撮影モードをタップするか、画面の下から上にスワイプしてライブビューに戻ります。

撮影パラメーターの設定

撮影モードにより、設定可能なパラメーターは異なります。実際のインターフェースを参照してください。

1. 画面下側から上へスワイプすると、各撮影モードのパラメーターを設定できます。



動画モードでは、左上隅をタップして、プリ録画またはループ撮影を有効にします。右上隅をタップすると、EIS モードと視野角を設定できます。

- プリ録画：有効にすると、カメラは設定した時間内に映像をプリ録画します。シャッター／録画ボタンを押すと、カメラは、シャッター／録画ボタンを押す前の最新の録画済み映像を保存して録画を継続し、その映像を全体の映像として保存します。この機能は、シャッター／録画ボタンを押す前にカメラが動画を保存

© 2025 DJI All Rights Reserved.

し、ストレージ容量を過剰に消費しないようにします。これにより、ハイライト（特に釣りなど）を逃さずに撮影できます。

- ループ撮影：有効にした場合、カメラは選択した時間が経過すると、古い映像を新しい映像で上書きして録画します。この機能はカメラのストレージ容量を節約し、ユーザーが予期しないハイライトを撮影するのを待つシーン（例えば運転中など）に最適です。
- EIS（電子映像ブレ補正）モード：
  - オフ：視野角を最大にして動画を撮影します。
  - RockSteady：映像のブレを補正しながら、ダイナミックな動きを維持します。スポーツシーンの撮影に適しています。
  - HorizonCorrection：映像のブレを±15°の範囲内で除去し、広角の視野を維持したまま、映像を水平に安定させます。
  - HorizonBalancing：映像のブレを±30°の範囲内で除去し、映像を水平に安定させます。一人称視点の撮影に適しています。

ジャイロデータで動画を録画するには、EIS モードを無効にし、カメラの視野角を**ワイド**に設定します。

パラメータを設定したら、画面上部から下にスワイプしてライブビューに戻ります。

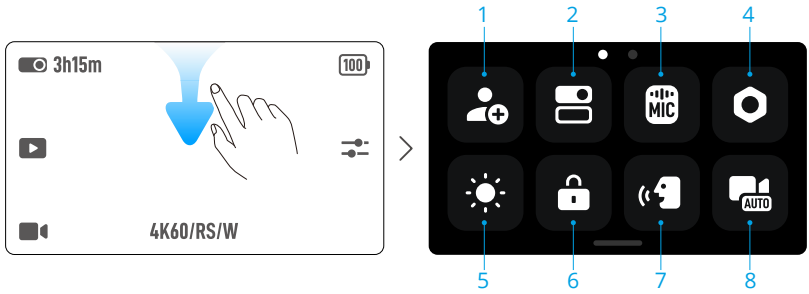
2. ライブビューで、 をタップすると、映像・音声パラメーターを調整できます。**PRO** をタップすると、アイコンが黄色くなり、プロ向けのパラメーターを調整できるようになります。

- [D-Log M]は、後編集時にプロ仕様のカラーグレーディングに対応するよう設計されています。ハイコントラストまたはマルチカラー（ガーデン、フィールドなど）のシナリオでは、ダイナミックレンジを拡大して、撮影後のカラー調整の幅を広げることができます。
- 10 ビットの色深度により、色変化を滑らかにできます。

コントロールセンター

画面上部から下にスワイプすると、操作センターに入ります。画面の下部から上にスワイプすると、ライブビューに戻ります。

© 2025 DJI All Rights Reserved.



1. **カスタムモード**

   現在の撮影設定をカスタムモードとして保存し、シーンを選択します。次回は、タッチ画面またはビジョンドックボタンを使用してこのモードに切り替えることができます。

2. **カスタムボタン**

   ボタン機能を設定します。

   ビジョンドックボタンの 2 回押し機能がモード切り替えに設定されている場合、**撮影モード**メニューでクイックスイッチモードをカスタマイズし、モード切り替え時に**音声プロンプト**を有効／無効にすることができます。

   音声プロンプトが有効になっている場合、ビジョンドックボタンを 2 回押すたびにカメラが現在の撮影モードを知らせます。これは、カメラがヘルメットやその他の見えにくい場所に設置されている場合に特に役立ち、ユーザーが目的のモードを正確に選択できるようになります。

3. **ワイヤレスマイク**

   カメラは 2 台の DJI ワイヤレスマイクトランスミッターに同時に接続できます。公式ウェブサイトにアクセスして、サポートされているモデルを確認してください。

   画面に表示される指示に従って、リンクしてください。リンクが完了すると、トランスミッターを使用してカメラを制御し、録画を開始し、音声をトランスミッターでキャプチャできるようになります。

   - 詳細については、DJI のウェブサイトや、マイク製品のユーザーマニュアルを参照してください。
   - 操作センターに入り、⚙ をタップして**内蔵マイクでの音声バックアップ**を有効にします。有効にすると、カメラの内蔵マイクは動画撮影中に音声も録音し、音声を別の.wav ファイルとして保存します。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

- トランスミッターがカメラにリンクされている場合、ワイヤレスマイク設定をタップして、トランスミッターの音声パラメーターを調整できます。

⚠ トランスミッターにリンクされた後に、カメラが単独で使用されている場合、録画中に画像は表示されません。

4. **設定**
5. **明るさ**
6. **画面ロック**
7. **音声操作**

   ［音声操作］を有効にすると、音声コマンドでカメラを操作できます。

8. **自動録画**

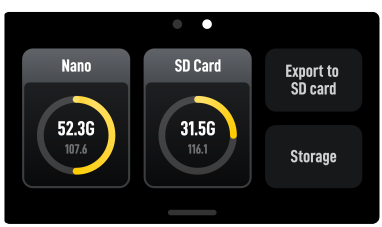
   トリガーアクションを選択し、時間間隔を設定した後、画面の指示に従って残りの手順を完了します。カメラの電源がオフになり、その後、プリセットされたトリガーまたは間隔に基づいて自動的に録画を開始します。この機能により、長時間の使用中にハンズフリー操作が可能になり、サイクリングやハイキングなどのアクティビティに最適です。

💡 録画中に自動録画機能を無効にするには、まずカメラボタンまたはビジョンドックボタンを押して録画を停止し、その後、操作センターに入って自動録画タスクを停止します。

3.3 映像の保存と転送

ストレージ空き容量

画面上部から下にスワイプし、それから左にスワイプすると、ストレージ情報を確認できます。



カメラには内蔵ストレージがあり、ビジョンドックに microSD カードを挿入することでストレージを拡張することもできます。

内蔵ストレージまたは microSD カードをフォーマットするには**ストレージ**をタップします。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

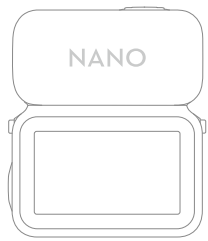
映像をビジョンドック内の microSD カードに直接保存することはできません。ただし、カメラの内部ストレージにある映像は microSD カードにエクスポートして、内部ストレージの空き容量を増やすことができます。

フォーマットを行うと、すべてのデータが永久に消去されます。フォーマットする前に、必要なデータをすべて、必ずバックアップしてください。

ファイル転送

- ケーブルでファイルを転送する際、カメラが接続されたデバイスを自動的に認識できない場合は、コントロールセンターに入り、 **> USB モード**をタップして、カメラを再接続してください。

microSD カードへのファイル転送

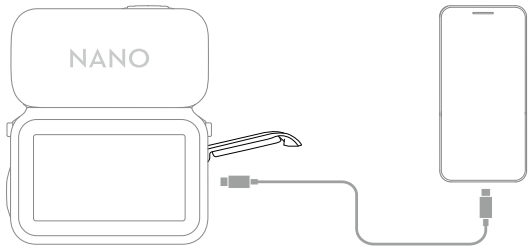


microSD カードが挿入されている場合、カメラがレンズを前向きにしてビジョンドックに取り付けられていることを確認してください。ストレージ容量ページで、**SD カードにエクスポート**をタップして、カメラからビジョンドック内の microSD カードに映像をエクスポートします。

モバイル端末へのファイル転送

- カメラを DJI Mimo アプリに接続し、アルバムアイコンをタップして、写真と動画をプレビューします。 をクリックして、写真と動画をダウンロードします。
- ケーブルで写真や動画を転送することもできます。カメラをビジョンドックに、レンズを前向きにして取り付け、付属のケーブルを使用してモバイルデバイスを接続してください。接続すると、端末のアルバムやファイル管理場所から、写真や動画の閲覧や転送が可能になります。

 © 2025 DJI All Rights Reserved.

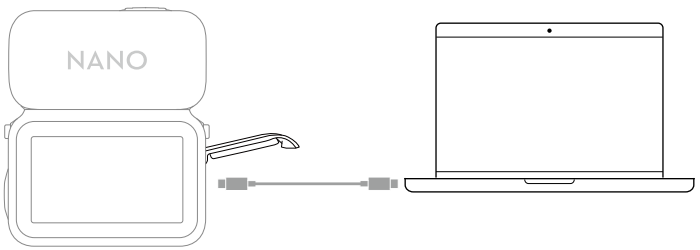


写真や動画は、DJI Mimo アプリから SNS プラットフォームに直接共有できます。

ファイルをパソコンに転送

カメラをビジョンドックに、レンズを前向きにして取り付け、付属のケーブルを使用してカメラをコンピューターに接続してください。

接続されると、タッチ画面にポップアップが表示されます。保存場所に基づいてファイル転送オプションを選択し、ファイルをコンピューターにダウンロードしてください。ファイルの転送中は、カメラで写真を撮影したり、動画を録画したりできません。

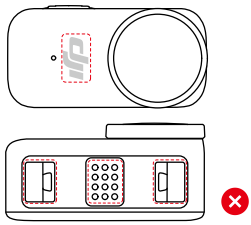


ファイル転送が中断された場合には、デバイスをパソコンに再接続してください。

3.4 使用上の注意

接点やスロットは使用中に熱くなることがあります。長時間触れないでください。カメラを長時間保持する必要がある場合は、図に示されている保持方法を使用するか、保護ケースを取り付けることをお勧めします。撮影にはマグネット式ストラップも使用できます。使用中に指を挟まないように注意してください。

© 2025 DJI All Rights Reserved.





水中での使用

⚠
- カメラユニットのみの場合、水深最大 10 m まで使用できます。
- 多機能ビジョンドックは水中では使用できません。カメラを水中に入れる前に、ビジョンドックを取り外してください。

1. カメラの防水性能を確保するため、レンズ保護カバーがしっかりと取り付けられていることを確認し、そのゴムリングを清潔に保ってください。本カメラの穴は、すべて防水処理が施されています。穴をむやみにいじったり、改造したりしないでください。
2. レンズ保護カバーが良好な状態であることを確認してください。破損した場合は、すぐに交換してください。レンズ保護カバーとレンズを清潔で乾燥した状態に保ってください。鋭利なものや硬いものはレンズを傷つけ、カメラの性能に影響を与える恐れがあります。レンズ保護カバーがしっかりと取り付けられていること、レンズの根元にあるゴムリングが外れていないことを確認してください。
3. カメラユニットを持って、勢いよく水に飛び込むことは避けてください。衝撃で漏水する恐れがあります。
4. 水中で使用した後は、浄水でカメラを洗ってください。次回使用するまで、自然乾燥させてください。柔らかく乾いた布でカメラの表面を拭きます。
5. ヘアドライヤーの熱風でカメラを乾かさないでください。マイクの薄膜や内蔵通気性薄膜が破裂し、カメラの防水性が失われる恐れがあります。
6. レンズ保護カバーの交換時は、カメラが乾いた状態であることを確認してください。カメラを水中で使用した後は、カメラを乾かしてから使用してください。これを行うことにより、レンズ保護カバーに水が浸入して、レンズが曇るのを防ぐことができます。

クリーニング

1. アルコールまたは洗浄液を含む液体をカメラに使用しないでください。
2. マイクの穴や放熱スロット、カメラのその他の部分が砂などの異物でふさがれた場合は、カメラを密閉・防水状態にして、真水で洗い流してください。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

3. レンズ保護カバーを頻繁に取り外さないでください。レンズカバー内にほこりがたまり、撮影画質に影響を与える可能性があります。
4. レンズは、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアーブロワー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。
5. カメラのクイックリリース用取り付け穴にほこりや砂が付着していないことを確認し、クイックリリース式アダプターマウントを取り付けてください。
6. 接点が濡れていたり、汚れていたりする場合は、ショートや腐食を防ぐため、接続する前に柔らかい乾いた布で拭いてください。

バッテリー

1. バッテリーを良好な状態に保つために、3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に放電したあと完全に充電するようにしてください。
2. バッテリー電圧が低すぎると、バッテリーは低電力状態になります。低電力モードを終了するには、バッテリーを充電してください。
3. バッテリーを完全に放電した状態で長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、修理不能な損傷が発生する恐れがあります。
4. バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、40～65%まで放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。

© 2025 DJI All Rights Reserved.

4　仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

https://www.dji.com/nano/specs

© 2025 DJI All Rights Reserved.

連絡先
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。
最新版は下記よりダウンロードしてください

https://www.dji.com/nano/downloads

本書についてご質問がある場合は、DJI（**DocSupport@dji.com** 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI と OSMO は、DJI の商標です。
Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.